県立学校学習空間デザイン検討委員会（中間報告のポイント）

2019.5.28
教育政策課・高校教育課・特別支援教育課

1　目的と経過

これからの学びにふさわしい学習空間について検討するとともに、効率的な施設の整備・維持管理手法について、建築、財政(官民連携)、環境、防災、教育等の専門家を招き、外部有識者により検討。

2　これまでの主な検討内容

テーマ：変化の激しい予測困難な時代を生きていく、未来の子供たちのための「これからの学校づくり」　⇦ 建築家等による県立学校全体の整備方法についての議論は、全国的に珍しい取組。

これまでの学校

画一的な教室
移動だけの廊下

これからの学校（検討意見の主なもの）

新しい学び：調べる、グループワーク、発表する等、活動的な課題探究型の学習

1 「主体的な学び」を実現するための可変的な学習空間を整備
　教室のサイズの柔軟化、廊下との連携による機能拡張、大講義室等の設置
2 空間の多機能化、用途が複数となる空間の重ね使い
　廊下を単なる動線とせず、活動が生まれる「フレキシブルラーニングエリア」へ

1 学習空間
　知識を蓄える学びから、能動的な活動により理解を深める「**探究的な学び**」を実現する空間
2 生活空間
　リラックスし、生徒交流等を生む生活空間
　居心地を良くし、快適な学校生活が過ごせる空間へ
3 執務空間
　教科毎研究室の分散配置から、教員全員が集う大職員室の設置へ
　教員間の意見交換等を容易にし、生徒が相談しやすく自主的な学習を手助け

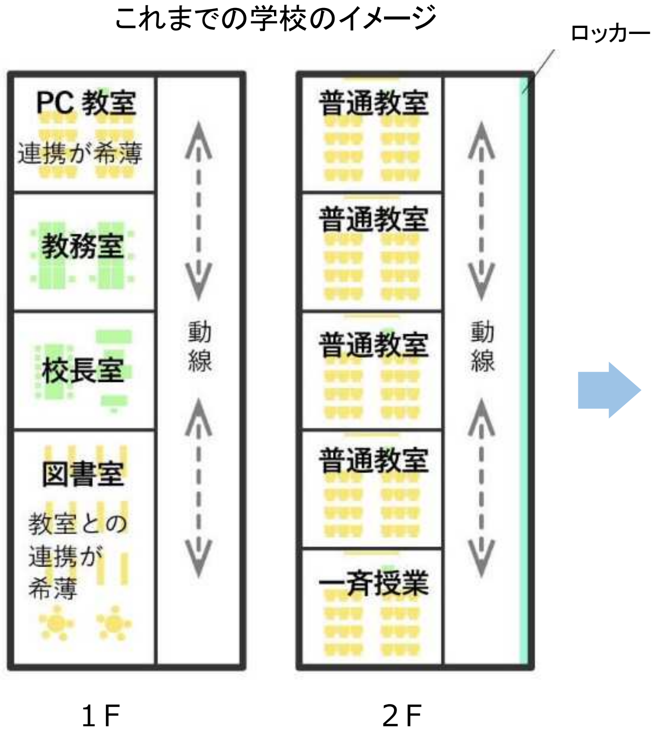
空間の有機的なつながり
　教科の枠を超えた融合的な学びへ。図書館を中心としたメディアセンター設置
　教室、メディアセンター、大講義室等を有機的に連携できるよう配置

居心地の良い学校
　これまで考慮の少ない、「快適性・居心地の良さ」を重要視。風通し、日の光等
　建物の基本性能を見直し、生活空間としての空調機能、断熱性能の向上等

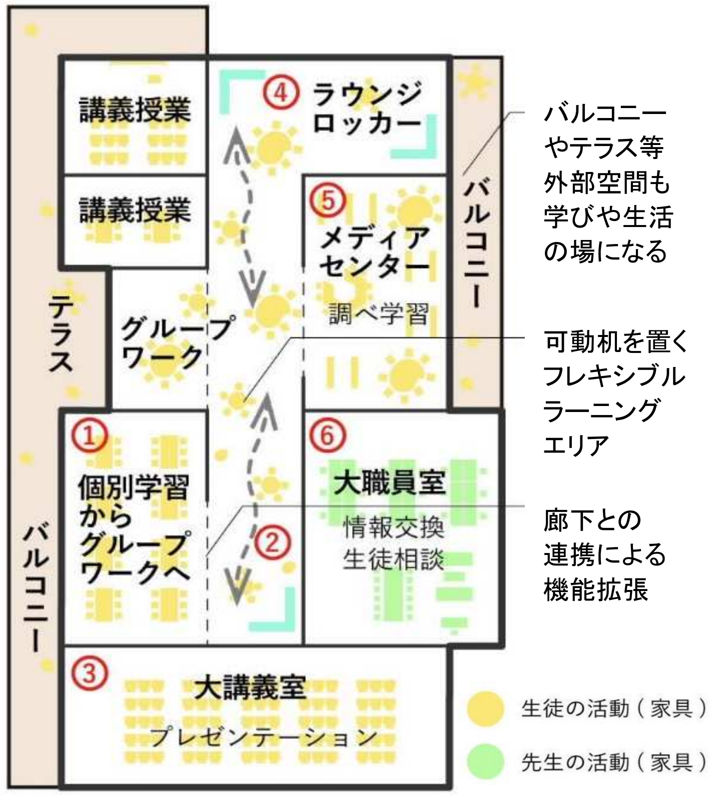
画一的な整備基準による整備 ⇨ **「プロポーザル方式」等、高いデザイン力や優れたアイディアの提案・仕組み**
　多様な提案から、地域の特色等を生かしたオンリーワンの学校づくり

少子化の課題
財政負担の軽減 ⇨ **「共有化・複合化」、「PPP・PFI」等の検討**
　少子化が進む中で、地域施設として共同利用、民間資金・ノウハウ活用を検討

これまでの学校のイメージ



これからの学校のイメージ



これからの学校のイメージ：先進事例（①～⑥）

① 課題探究的な学習も出来る教室

② グループワークも出来る廊下・教室と連携

③ 大講義室

④ 生徒ラウンジ・ロッカー

⑤ メディアセンター・図書館

⑥ 大職員室

3　検討委員会　委員

委員長 赤松　佳珠子	法政大学デザイン工学部教授、㈱シーラカンス　アンド　アソシエイツ代表 公共建築等の設計多数。最近では、渋谷駅再開発・大規模複合施設「渋谷ストリーム」をデザイン 特に、学校建築の実績は目覚しく、日本建築学会賞、BCS賞やグッド・デザイン賞等を受賞
大竹　弘和	神奈川大学人間科学部教授 官民連携、長野県立武道館のアドバイザー、スポーツ庁との仕事等
茅野　英一	帝京大学経済学部教授 神奈川県財政課長等を歴任、地方財政・地方自治体の課題への提言等
柳澤　要	千葉大学大学院工学研究院　教授 文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究」委員、地方自治体の建築計画の検討委員多数

竹内　昌義	株式会社みかんぐみ代表 建築、環境設計、断熱改修等。岩手県紫波町「オガールプロジェクト」 補助金によらない新しいまちづくり		
阪本　真由美	兵庫県立大学大学院　減災復興政策研究科准教授 長野県危機管理部の防災アドバイザー、阪神大震災における学校現場での課題の伝承等		
荻原　白	公益社団法人　長野県建築士会　会長　㈱宮本忠長建築設計事務所 佐久長聖中学・高校の建替事業の設計者、県立武道館設計者（環境デザインとの設計共同体）		
内堀　繁利	長野県教育委員会事務局 高校改革推進参与	矢野口　仁	県特別支援教育連携協議会委員 特別支援学校校長会長